



インフルエンザについて～その①～

朝晩の冷え込みも厳しくなり、日毎に冬の訪れを実感するようになってきました。各地で初雪のニュースも聞こえ始めるこの時期から、段々と新聞紙面等を賑わし始めるものがあります。インフルエンザウイルス流行のニュースです。

インフルエンザとは

皆さんの中には既に予防接種をお済ませになっている方も多いのではないのでしょうか。ご存知のように、インフルエンザに罹患しても殆どの例では軽症で多くは数日で軽快します。また最近ではインフルエンザに対する新薬も続々と発売され、一昔前と比べると治療も格段に進歩しております。

しかし最近では新型ウイルスの大流行、いわゆるパンデミックの危機に直面しました。また中には重症化する例、死亡例もあり油断は大敵です。でもその半面、個人あるいは家庭、職場などで、しっかりと予防策を講じていけば、かなりの確率で感染を予防することが可能な病気でもあります。

ここでは、診断、治療に関しては余り触れず、インフルエンザに関する基本的な事柄を中心に、簡潔に述べさせていただきますと思います。

インフルエンザは、言うまでもなく「インフルエンザウイルス」が人間の体に感染して起こる病気です。日本では毎年11月頃から流行が始まり、1～3月の間に流行のピークを迎えます。



インフルエンザにはA型、B型、C型の3種類があります。

A型はヒト以外にも、トリ、ブタ、ウマなどにも感染します。また144種類もの小さな分類があります。20世紀初頭にヨーロッパを中心に大流行し、4千万人の死者を出した「スペイン風邪」や記憶に新しい「新型インフルエンザ」などはこのA型になります。

これに比べB型は2種類、C型は1種類しかなく、いずれもヒトにしか感染しません。

C型は一般的な風邪とほぼ同じ症状であることが多く、はっきりとした流行のパターンはとっていません。またインフルエンザは、主に飛沫感染と呼ばれる感染様式をとります。

つまり、感染したヒトからくしゃみ、咳などにより吐き出される小さな唾液

の粒子の中にウイルスが混じり、それを周りのヒトが吸い込むことでウイルスが鼻腔粘膜や口腔粘膜に到達。感染が成立します。

インフルエンザに感染し、症状が現れるまでだいたい1～3日後かかります(潜伏期間)。その後典型的には突然の強い寒気に続き高熱、関節痛、筋肉痛が出現します。また鼻水や咳、喉の痛みなど通常の風邪と同じ様な症状を伴うこともあります。大体症状は4日～5日前後続きます。

ただ症状には個人差もかなりあり、ごく軽い症状だけで済む場合もあることから、症状だけでは通常の風邪とかなかなか区別が付きません。

ちなみに、この発熱症状がでる少し前からウイルスを外に出し始めるので、他の人へ感染するリスクが出てきます。そして熱の最も高い時期に、外に排出するウイルスの量が最も多くなります。

また熱が完全に下がっても、約2日間はウイルスを外に出すと言われており注意が必要です。

